



学校便り

だしる

自主・向学・協調・練磨

錦江町立田代中学校

令和7年1月24日発行

合い言葉 やればできる

やる気スイッチON

校長 土岐 邦寿

子供のやる気を引き出させたい。でも具体的にどんなことをしたらいいかわからない。そんな思いは多くの人が持っていると思います。どうやったらやる気が起こるようになるのでしょうか？

先日、錦江町学校保健会研修会の中でリアライズ有限会社代表川添まり子さんの講演がありました。その内容はやる気スイッチを押す方法やペップトークなど質問力を活用して、子どもたちがいかにやる気を持って学習やスポーツなど取り組むかについて話をしてくださいました。一部ですが紹介したいと思います。



やる気のきっかけは小さな探究心から始まります。この探究心をもとにいろいろなチャレンジをすることが初期のステップ。次に成功体験を通してもっとやりたいとか上手くなるにはどうしたらよいのだろうという意欲が出てきて、想像力と創造力が芽生えてきます。そのチャレンジする体験を認めてあげることにより、相手との信頼感が生まれてきます。体験が共感力を培うのです。この共感力は後半に出てきます。

「やる気・できる思考」を伸ばす質問はどんなものがあるでしょう。やる気スイッチを見つける質問としては、行動に対して「何をしたかったの？」「どうしたらいいの？」という質問を投げかけてみる。「何々をやりたい」って言ったら「本当に？」と問いかけ、それで「どうすればいいと思う？」などの声をかけて実行に移すための後押しをしてあげると良いそうです。

またいろいろ話しかけてきたら、その受け答えとして、「そうだね」、「なるほど」、「そうなんだ」、「それで」などと相づちをしてあげることがとても大切です。子供の出した答えはどんな答えも正解です。どんな答えも「いいね」と受け止めてあげてください。時には答えが出ないことがあるかもしれませんが大丈夫。前に向かって一歩進むことを大切にしていると子供のやる気を後押しする力につながります。

行動していても長続きしないと悩んでいる保護者の方もおられるかと思います。心に響く励ましの言葉かけとして、3つのポイントがあります。①不安に思っていることを認めてあげる。②できない辛さ、もしくは今の段階でできていることを認めてあげる。③できたことを認め、共感してあげる。このように承認や共感することが、子供たちの自己肯定感を高めることにつながります。

もう一つペップトークというキーワード。例として、いろいろチャレンジで失敗した時、保護者として「あなたならできるよ」という言葉。改善的が見つかったら「ここまでやれたんだね。もう一歩だね」という励まし。そしてベストを尽くした姿に「ここまで出来たんだね」と、できたことをともに分かち合う。このような言葉かけと共感が次のステップとなります。これに付け加えて日頃からの言葉かけも大切です。なるべくポジティブな言葉を子供にかけてあげましょう。例としては「きっとできるよ」「落ち着いてね」「改善点が見つかったね」「どうやったら楽しくなる」「これからきっと得意になるよ」など、前向きな言葉をいっぱいかけてあげてください。できたことに対して自分も相手も一緒に感動を分かち合うこと（共感力）が次の大きなステップになります。ぜひ参考にしてみてください。